

cue

京都大学電気関係教室技術情報誌

NO.4 DECEMBER 1999

[第4号]

.....
卷頭言

名誉教授 坂井利之

大学の研究・動向

デジタル通信分野・エネルギー情報学分野

.....
産業界の技術動向

新設研究室紹介

シリーズ：研究内容紹介

博士論文概要

学生の声

教室通信

cue：きっかけ、合図、手掛かり、という意味
の他、研究の「究」（きわめる）を意味す
る。さらに KUEE (Kyoto University
Electrical Engineering) に通じる。

教室通信

今年度の就職状況

厳しい不況を反映して求人企業数、各企業の求人数は、共に例年より減少しましたが、幸にしてほとんどの学生の進路が決まりつつあります。今後多少の変動は予想されますが、平成11年10月末の時点で把握できている学部4回生および修士2回生の進路はおおよそ下表のような状況です。

なお電気電子工学科の進学予定者107名の内訳は、工学研究科57名、情報学研究科44名、エネルギー科学研究科6名です。大学院修士課程については、現在までに資料の得られた電気・電子物性工学専攻および通信情報システム専攻（電気関係研究室分のみ）について示します。修士課程の進学者の進路はいずれも同一専攻の博士後期課程です。

学科・専攻 進路	電気電子工学科	電気・電子 物性工学専攻	通信情報 システム専攻
進学	107	3	5
官公庁	1	2	1
電力会社	3	6	3
電気・電子メーカ	6	25	20
その他製造業	5	5	1
通信事業者	1	9	5
その他企業	2	6	2
就職先未定	2	1	2
留年・研究生	12	0	0
合計	139	57	39

編集後記

お蔭さまをもちまして、cue も発刊以来はや第4号を迎えることができました。丸2年が経ち、記事の内容や体裁もおおむね固まりつつありますが、ご期待に添えているでしょうか？ 刊行に当っては、お忙しい中、ご執筆をお引き受けいただいた皆様はもちろんのこと、その他、数々の方々にお助けいただいた上ではじめて皆様のお手元にお届けできていることを、改めて実感している次第です。2000年という節目を迎えるにあたり、まだまだ至らぬ点もあろうかと存じますが、引き続きご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

(T.H.記)

おわびと訂正

「cue」第3号の平成10年度修士論文テーマ紹介につきまして、編集上の不手際により以下の論文一件が掲載されませんでした。関係各位にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びしてここに掲載いたします。

=====

岸本豪（深尾教授）「中緯度E領域沿磁力線イレギュラリティの生成に関する計算機シミュレーション」

中緯度電離圏E領域沿磁力線イレギュラリティの観測で見られる筋状構造を伴った準周期エコーの生成機構の解明を目的として、電離圏E領域の計算機シミュレーションを行い、準周期エコーを説明できるスプラディックE層の形状やプラズマ密度構造の検証を行った。

=====

発行日：平成11年12月

編集：電気電子広報委員会

奥村 浩士、佐藤 亨、小野寺秀俊、
萩原 朋道、野田 進、川上 養一

発行：電気電子広報委員会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学工学部電気系教室内

E-mail: cue@kuee.kyoto-u.ac.jp

印刷・製本：株式会社 田中プリント